

平成29年度第4回安城市地域ケア推進会議及び安城市医療・介護・福祉ネットワーク協議会

日時 平成29年7月20日(木)

午後1時30分～午後3時

場所 社会福祉会館 3階 会議室

1 会長あいさつ

昨日梅雨も明け、非常に暑くなり、これから大変な時期ですが、みなさん忙しい中お集まりいただきありがとうございます。一つ報告。7月1日に杉浦先生を講師に「エンドオブライフ・ケア」の研修会がありました。4時間の長時間にわたるものでしたが、この中にも何人か参加者があり、有意義なものでした。包括ケアを進めるにあたり、多職種で地域の方の最期をどう支えるか、ロールプレイ、グループディスカッションをしました。応募数の半数ほどの、定員30人枠であったが、今後も継続的にやっていくことになるます。ぜひ皆さんも参加してください。今日の議題は秋からの取組の準備に関するものです。検討をお願いします。

2 議題

(1) 在宅医療を広く知ってもらうためにやること

1) 在宅医療に関するガイドブックについて

(事務局) スケジュールの確認、作成の目的、どこで使うか、誰を対象にするかの確認と、掲載項目の検討をするにあたり、他の市が作成したものを参考に紹介する。

○スケジュールについて(資料1-1)

- ・完成時期は来年度初めを目標とする。
- ・9月以降に全体のボリューム、ページ数などを決め、素案を10月に提示、11月以降、内容を部会の意見を取り入れながら検討し、2月頃に原稿案を提示できるようにしたい。

(質問・意見) なし

○作成の目的、どこで使うか、誰を対象にするか(資料1-2)

(意見)

- ・地域支援部会：地域ケア地区会議に出席した。開業医、歯科医、薬剤師から地域包括ケアのコメントがあった。医者からは認知症の恐れのある高齢者の運転免許証への対応が大変ということ、八千代病院や更生病院のような専門医の協力が欠かせないこと、歯科医からは在宅でも機器がうまく使えるのか、院内とでは環境が異なるが、訪問歯科診療に力を入れていく方向であるという意見があったが、地域ケア推進会議の場で聞く意見と幾分温度差を感じた。ガイドブックを作るにあたっては現場との温度差を埋めるようなものを作ってもらえるとよい。

- ・在宅医療サポートセンター：どこで使用するかについて、今のところ対象が高齢者に

偏っているように思われる。若い世代が介護者側になる。若い人が集まる場にガイドブックを置くとか、TVなどでやっているように在宅医療の出前講座のようなものを小学生や中学生にし、彼らが大きくなった時に担い手になれるように、教育の場でも使えるとよい。

⇒・専門職の中でも参考にできる内容にする。

・教育現場でも使用できる内容にする。

・対象者：在宅医療に興味を持っている人、これから興味を持ってほしい人

・考え方を標準化することを目的とする。

○掲載項目について

(事務局)

- ・(資料1-2)にある他市のガイドブックを参考に、各部会で掲載項目を検討し、意見を8月25日までに事務局に提案してください。
- ・(資料1-3)医療機関の機能分担については、在宅医療・介護連携推進のための研修会で取りあげた、八千代病院、安城更生病院、在宅診療医の機能についても掲載したい。

(意見)

- ・病院部会：「在宅医療」は医師、歯科医師、薬剤師、看護師などが在宅で医療を提供する全般をしめすので、他項目との統一性から医師が患者のところに行くことについては「訪問診療」にした方がよい。

⇒「在宅医療」を「訪問診療」に修正する。資料配信時には修正したものを出す。

- ・病院部会：誰に情報を伝えるかという点についての意見。病院は患者が増えて逼迫した状況。在院日数はさほど長くないが、救急車を断らなくてはならない状況が増えている。おそらく高齢の患者さんが病院を受診をせざるを得ない人が増えているからだと思う。限りある資源をいかに有効に使っていくかを健康な人、若い人も含めて市民全体で考えなくてはならない。この地域は入院できるベッド数が非常に少ない。そんな中で、ひとつの選択肢として在宅医療がある。地域の人も心構え、覚悟をもっていかなければならないということを示していかねばならないのかなと個人的には思う。この状況は時間がたてばより一層厳しい状況になるであろうことも伝えていかねばならない。病院に来なくても在宅で対応できる人を増やし、病院で最期を迎えるのではなく自宅で最期まで過ごすことができるように、在宅医療を普及、充実させることで、病院の医療が必要な人に提供できるということ伝えていけるとよい

⇒具体的な内容を検討するさいに、この考え方を取り入れていきたい。

- ・住まい部会：ガイドブックに「看取り」を入れるのか

⇒項目に挙げるのか、どの程度のところまで載せるのかを推進会議で意見を取り入れて検討していく。

2) 福祉まつりでのPRについて

○訪問看護ネットワークで協議している内容について発表

- ・会場は総合福祉センター一階。昨年に比べ、来場しやすい場所。隣のブースはスギ薬局。
 - ・他部会への協力要請について、医師会部会の協力で、在宅医療で使用する物品の展示をるところまでは決まった。それ以外の部会へはまだ声をかけていない。
- ⇒他の部会で協力できることがあったら推進会議で発表してください。
事務局ができることがあれば声をかけてください。

3) 劇団の立ち上げについて

(ヘルパーネット部会高橋氏) 先回の推進会議で劇団立ち上げと団長を打診された。一生懸命やるのでよろしくお願いします。9月30日の認知症を知る講演会で第一回目の公演が決まった。認知症になったおじいちゃんの対応に困った場合の相談窓口として「かかりつけ医に相談しましょう」、徘徊が心配になったときに「見つかるつながるネットワーク」をPRする2部構成で寸劇を披露する。在宅医療の窓口や安城市にあるシステムを知ってもらう内容の劇にする。「在宅医療」というと大きくなってしまっているので、部門、部門で寸劇を作って、地域の方々にわかってもらえるようにしていきたい。団長として、スタッフを集め、皆さまにも協力してもらいながら進めていくのでよろしくお願いします。

⇒ (拍手)

- ・本日をもって劇団立ち上げ、団長は高橋氏。
- ・劇団名は「劇団サルビー見守り隊」
- ・いろいろなテーマを寸劇にして、市民に周知してほしい。事務局も協力する。
- ・認知症を知る講演会のポスター、チラシの準備をしている。その中に「寸劇で知ろう認知症。劇団サルビー見守り隊」と掲載する。

安城市医療・介護・福祉ネットワーク協議会

(2) サルビー見守りネットに地区社会福祉協議会担当（生活支援コーディネーター）が利用者登録することについて

(事務局) 地区社協の担当者は、サルビー見守りネット運用開始時には、療養者に直接係る可能性が低いこと、介護保険サービス事業者ではないことから利用者登録の対象ではなかった。実際に運用している中で、療養者の地域での見守りや生活支援などの状況について、民生委員、町内会の地域支援部会からの情報を地区社会福祉協議会からサルビー見守りネットに掲載することが想定されること、また現在、部会間の情報共有ツールとして活発に利用されていることから、保健福祉部会の地区社協担当者の利用者登録について承認いただきたい。

⇒承認

(意見)

- ・地域支援部会：地区会議の中で医師からサルビー見守りネットの普及に力をいれていきたいが、現在参加している医師が少ないという発言があった。現状はどうなのか。

⇒ (医師会部会) 医師会は最初10人くらい登録し、その後も少しずつ増えている。医師会会員90件余りのうち在宅医療をやっているのが20数件なのでかなりの部分登録できていると思う。在宅医療をしていないところでも通院患者で訪問看護を利用している、介護サービスを利用している場合がある。そこに浸透させて活用できるようにしていきたい。医師によってはICTのツールに馴染まない人もいる。それに対して、在宅医療サポートセンターが直接出向いてセッティングするなどのサポートをして普及に努めている。

ICTの普及については、10月14日にケアマネット部会と合同で研修会を企画している。

連絡事項

- ・認知症ガイドブック (H29年度版について)

(事務局) 今年度版に推進会議の意見を反映させた。6ページを参照。各包括支援センター、福祉センター、市役所で常時相談に来た人に説明する際や、集まりで周知のために配れるようにしていく。

- ・地域包括ケア市民フォーラム

日時：平成29年7月22日(土) 午後1時30分から

場所：文化センター マツバホール

講師：金子稚子(かねこ わかこ)氏

- ・在宅医療・介護連携推進のための研修会 (資料2)

①テーマ：「地域包括ケアシステムにおける社会参加を重視したリハビリテーション」

日時：平成29年8月24日(木) 午後7時から

場所：アンフォーレ ホール

講師：竹田 徳則 氏(星城大学 リハビリテーション学部教授)

※(訪問リハネット) リハビリテーションの最終の行先は可能な方であれば地域に戻ることにあるので、地域支援部会、特に町内会で行われているサロンの運営をしている福祉委員会の人にも出席を呼びかけたい。

⇒(保健福祉部会) 福祉委員会のとりまとめは地区社協がしているので、地区社協から福祉委員会に周知する。

②テーマ：虐待についての勉強会

日時：平成29年8月30日(水) 午後7時から

場所：市民会館大会議室

講師：和田 行男 氏

次回 平成29年8月17日(木) 午後1時30分～3時 社会福祉会館
3階 会議室

